

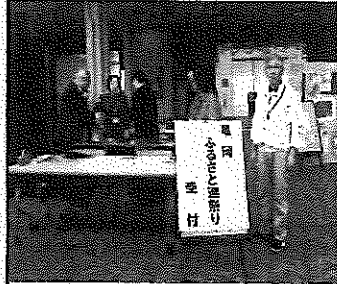
事業報告書

団体名: 亀岡広島県人会

1、事業名 「市制60周年記念 亀岡市民全国県人会まつり」

2、事業内容 実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

日時: 2015年11月23日(祝・月)
 場所: ガレリアかめおか 1Fフロア
 参加者数: 参加総数250名(ふるさと連、当日来館者、お手伝い(餅つき関係)、市制60周年年記念関係者、子供)
 事業内容: ガレリアかめおか(8月22日~29日)において来館者へのアンケート調査(添付資料①)から全国各府県の県人を集め、亀岡でお国自慢の県人会まつりの開催への啓蒙活動を実施する。(テーマは添付資料②)
 県人会祭りに向け呼びかけ人(亀岡広島県人会)として準備にはいる(活動記録添付資料③)
 11月23日「市制60周年記念 亀岡市民全国県人会まつり」の内容
 ※尚、パンフレット等は名称を「亀岡・全国ふるさと連まつり」としています。理由は、活動主旨の問い合わせ等の大半が、広島県人会の活動と勘違い(全国県人会まつり=広島県人会)されている点と多くの参加を得る為です。
 ○もちつき大会(10:30~14:00)



(広島県人会のスタッフで受付準備)



(餅つき!)

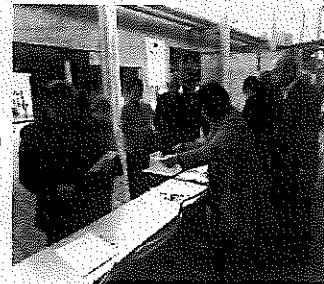


(姉妹都市のお客様も餅つき!)



(女性スタッフも頑張っています!)

○市制60周年記念・全国ふるさと連まつり(11:30~12:30)



(全国県人会まつりの受付風景)



(黄粉餅のお味は?)



(第1回開会の挨拶へ)



(会場風景)



(サークル菜摘様の音楽ショー)



(坂本先生の講和)

3、成果 事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成長を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

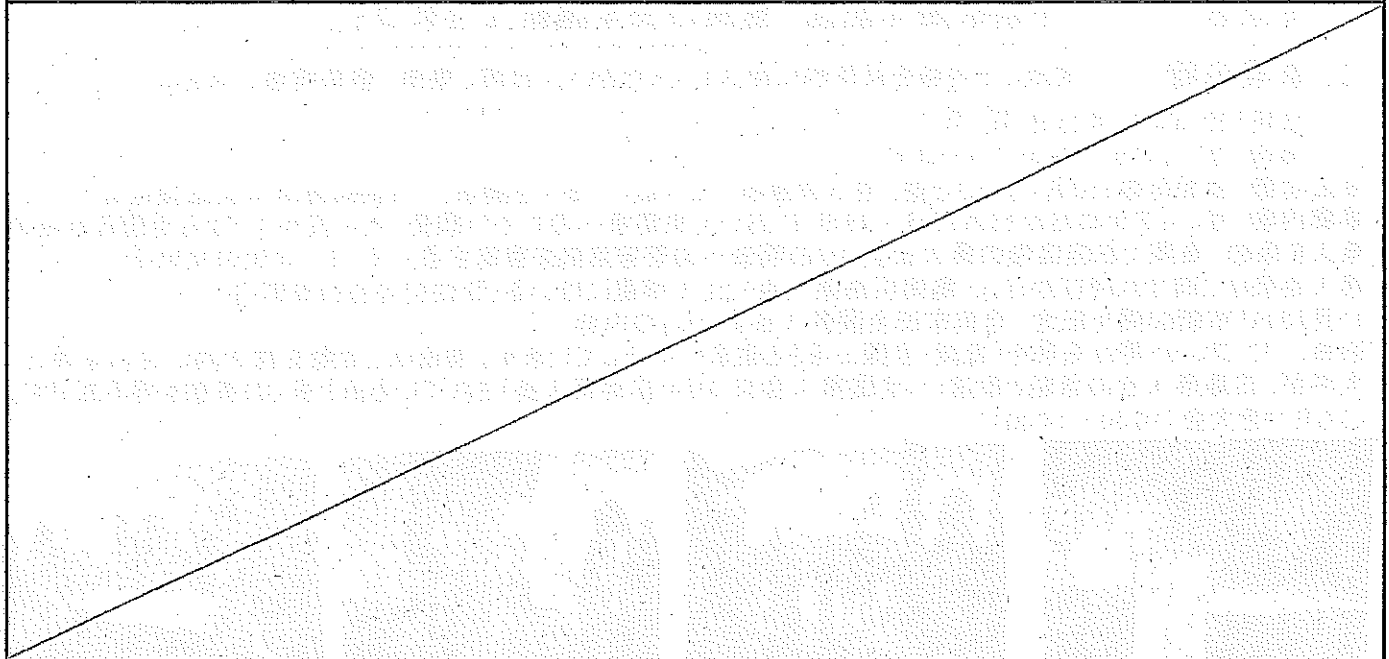
申請時の課題解決への目標
 ●「共通のふるさとを持つ人」をキーワードで住民に呼びかけ、県人会を結成し、新たな県人会連合としてグループ化を図り、ふるさとを同じにする人たちの連帯感や絆を育み、市内の社会貢献活動につなげたい。又同郷意識から連帯感を生み、地域貢献に関わる人を増加させ、「いきがいつくり」に寄与することが出来る。(申請時のコメント)

↓

●上記に対する成果
 9時より受付開始、胸に出身地(地域別カラー名刺)を書いたネームプレートを付け早々の同県人同志、笑顔で交流している姿があらこちらで見られた。多くの参加者も大変喜んで楽しんでおられました。サークル菜摘さんの軽音楽を大勢の人に楽しんでもらえ、次回開催の目安となり多少自信が出来ました。

まだまだ県人会結成へのステップには、当面亀岡広島県人会がリーダーシップを取り、呼びかけを行い発展させていくことが必要であり、次回への開催に向けて情報の整理と多くの意見を参考にしていきたい。
 ※今回亀岡市制60周年記念で、海外姉妹都市より参加があり、一緒に餅つきをし、食され日本の文化を楽しみ大変喜び感激されていました。

4、協働の効果 ※市民連携事業、行政連携事業のみご記入ください。
事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。



5、今後の展開 事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。

<p>(1) 終了後の展開(A)申請時のコメント 亀岡に少しでも各都道府県別に県人会等が設立されれば、亀岡のまちづくりへの提言(各地多様な価値観で亀岡を議論して街づくりのヒントにする)。</p>	<p>※今後の展開へ 今回参加された人より役員を選出し、実質的な県人会を広めていきたい。住み良い町づくりにする為に何か貢献したい。今回「亀岡・全国ふるさと連まつり」は1回目としては大成功に終わったと感じております。反省点としては、高齢者の参加が多く餅つき手が少なく思わぬ出費となった(バイト代15,000円→商品券)</p> <p>当日の会場が受付、餅つき、式典会場とやや分離していたので、一体感が伝わらなかったように思うので、次年度開催時に工夫したい。また、出席者はやや高齢者が多かったため、現役層のふるさと市民も取り込むように工夫したい。</p>
<p>(2) 支援終了後の展開(B)申請時のコメント 特に広島県人会としては、戦後・被爆70年から、長崎県の人達とともに、亀岡市の「安全・安心」のまちづくりを発信できる取組が出来る事を願っています。</p>	<p>長崎県出身地は名簿(登録)から1名、当日会場アンケートにて1名(計2名)の参加となりました。まだまだこれからの活動を等して懇親を深めていきたい。</p>

「ふるさと」とキーワードに他府県から亀岡へ移り住んでいただいた皆様と、地元亀岡の良きふるさとを積極的にPR出来る環境を整えて、さらに多くの方に亀岡へ移り住んでいただけるように今後の活動へつなげていきたい。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

各県人会亀岡につくろう



亀岡市内で各県人会の結成を呼び掛けるのぼり

(8月下旬、亀岡市余部町・ガレリアかめおか)

「広島県人会」呼び掛け 11月に催し計画

亀岡市内唯一の県人会「亀岡広島県人会」が、市内在住の京都府外出身者に、各県人会を立ち上げてほしいと呼び掛けている。同会が組織づくりを手伝うほか、各地の出身者を集めた「県人会まつり」も11月に計画。同会は「宅地開発で移った人の多くが退職者となっているが、地域との交流が少ない。お国自慢で集まることで、市民の絆づくりに役立ちたい」と語る。

亀岡広島県人会は、知人同士の飲み会などを契機に1991年に発足。県出身者のほか亀岡生まれの子ども世代、広島で勤務経験がある人など、現在44人が入会している。懇親会のほか、京都市で開かれる全国高校駅伝への応援といった活動を続けている。

今年、市制60周年を迎

お国自慢集い絆づくり

えたことから、同会も記念事業として、11月28日に各県出身者を集めた「亀岡市民全国県人会まつり」を企画。各県人会を新たに結成してもらおうと、広島県人会のメンバーが知り合いらに地道に声を掛けている。

同会は今月、余部町のガレリアかめおかで開いた「原爆と人間展」に合わせ、県人会設立に関するアンケートを来館者に行った。約120人の回答では、出身地は京都府以外で28都道府県にまたがり、県人会を望む声は多かったという。

約40年前に亀岡に居を構えた広島県世羅町出身の井手口幸男会長(74)は「東つつけ丘」は「例えば徳島出身者が阿波踊りを披露すれば催しが盛り上がる。故郷の団結力を生かし、亀岡のためになることをしたい」と期待を込める。問い合わせは亀岡広島県人会の茶木さん携帯電話090(80303)3187。

(久保田昌洋)

亀岡で深まる同郷の絆

「全国ふるさと連」設立

亀岡市在住の市長が出身府県ごとに集まって交流を深める「全国ふるさと連」がこのほど設立された。27道府県の234人が登録した。今後、さまざまな活動を通して同郷の絆を強める。

ふるさと連は市内唯一のツタクラとして成長した
身人会「亀岡ふるさと連」 亀岡市には府外出身者が多
の呼び掛けで発足した。べいといふられ、市長の新たな



亀岡市在住の京都府外出身者が集まって設立した
全国ふるさと連の総会

(亀岡市茶臼町・カトリック教会)

27道府県234人登録 「工夫して交流の場に」

絆つくりに役立てばと組織を立ち上げた。

登録者の主な出身地は、39人の広島のほか12人の兵庫、岡山、9人の大阪、福岡、長野、8人の高崎、三宅、7人の滋賀、榊井、熊本、山口など。北海道から沖縄まで全国にまたがっている。

活動内容は今後具体的に検討するが、郡道府県対抗で行われるスポーツ大会の応援や各地の特産品を集めた物産展、民俗芸能フェスティバルなどが考えられるという。

亀岡市茶臼町のカトリック教会で開かれた設立総会では、京都学園大の坂本眞雄名誉教授(秋田県出身)を会長に選出した。坂本会長は「多様な市長がいる自治体は元気がある。いろんな工夫をして交流の場としていきたい」と抱負を語った。

参加した長野県出身の竹内芳雄さん(67)は「同郷のつながりができれば、善光寺の開帳や地元の花火大会などの際に一緒に帰郷できるかもしれない」と話していた。ふるさと連は市民の参加を募っている。連絡は事務局の茶本さん携帯電話090(893)331097。(日暮暁華)